特集

新春×対談

少子・超高齢社会に対応し、持続発展できる宇都宮を

行政と商工会議所は宇都宮市の両輪

景気が徐々に明るさをみせてきたといわれた2017年、会員の皆さまはいかがでしたか？　1月号恒例の新春対談は、関口快流新会頭と佐藤栄一宇都宮市長が初顔合わせ。よりよい宇都宮の実現に向けた夢を語り合いました。

昭和36年生まれ。明治大学法学部法律学科卒業。昭和61年3月から平成16年11月まで北関東観光開発（株）代表取締役。平成9年、（社）宇都宮青年会議所理事長就任。平成12年、（社）日本青年会議所副会頭就任。ほかに、宇都宮商工会議所青年部会長などを務める。平成16年11月28日から宇都宮市長（4期目）。

宇都宮市長

佐藤 栄一

「より足腰の強い宇都宮市の実現のためにお力添えを」（佐藤市長）

関口　佐藤市長、新年あけましておめでとうございます。

佐藤　おめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。また、遅ればせながら宇都宮商工会議所第19代会頭ご就任、おめでとうございます。

関口　ありがとうございます。行政と経済界、力を合わせて宇都宮市の発展をめざしましょう。

　さて、平成29年はどんな年でしたか。

佐藤　私がいちばん印象に残っているのは、関口快流副会頭が会頭に就任されたことです。

関口　ありがとうございます。

佐藤　宇都宮市の経済は商業・工業・農業の三本柱のバランスが良いことが、特徴であり強み。関口会頭には経済界を束ねていただき、より足腰の強い宇都宮市の実現のためにお力添えをお願いします。

関口　佐藤市政の3期の実績をみると、私は「全国でも有数の、有力な市長」と感じます。これまでのさまざまな施策の結果が宇都宮市の「住みよさランキング日本一」（※1）という結果を生んでいるのでしょう。保育など働きやすい環境整備や教育など、さまざまな環境も整っています。

　加えて、昨年は懸案のLRTについても一歩も二歩も前進した年でした。

佐藤　会頭が音頭をとってくださったおかげで、9月2日に開催された「LRTの早期着工を目指す市民大会」は、約3000人にご参加いただきました。私も参加させていただきましたが、皆さんが「LRTが通ってほしい」にとどまらず「通ったらどういうまちづくりをしていくか」を考え、積極的に提案されていると感じました。実にありがたく、また頼もしく感じました。

※1 東洋経済新報社「住みよさランキング」で、人口50万人以上の全国28都市を対象とした調査結果

「映画もスポーツも、宇都宮市イメージアップに大きく貢献」（関口会頭）

関口　11月には「57カ月景気回復、いざなぎ景気超えて戦後2番目」とのニュースがありました。経済が回復基調にあるとされる昨今ですが、私どもからするとそれはまだ中央のことであり、地方まで回ってきているのだろうかと思わざるを得ません。だからこそ、宇都宮市が経済回復の恩恵を受ける先駆け的存在になるよう、いろいろな事業を行っています。今後ともさらに地域中小企業のために汗をかいていきますので、宇都宮市のご協力もよろしくお願いします。

　昨年もいろいろなことがありましたが、印象深いのは地方創生ムービー『キスできる餃子』の撮影が行われたことです。今年初夏に公開予定ですが、スタッフもキャストもそうそうたる顔ぶれですから、大変期待しています。

佐藤　『キスできる餃子』は、主演女優がいま旬の方ですし、内容も幅広い層に観ていただけるラブコメディですから、反響も大きいのではないでしょうか。宇都宮市中心部や大谷地区などでロケをして、餃子だけでなく宇都宮市全体の魅力が詰め込まれた映画になるようですね。

関口　PR効果も大きいと思います。

佐藤　また、スポーツ界では、プロバスケットボールチームのリンク栃木ブレックスが、Bリーグ初代王者に輝きました。すばらしかったですね。6月3日の優勝パレードは宇都宮商工会議所青年部が中心になって行われ、約3万人が参加しました。

関口　スポーツではもうひとつ、暮れが押し迫ってからうれしいニュースが入ってきました。サッカーの栃木SCが、念願のJ2復帰を決めてくれました。うれしかったですね。J2でじっくり力をつけて、ぜひJ1昇格をめざしてほしいと思います。

佐藤　自転車ロードレースチームの宇都宮ブリッツェンも毎年好成績を挙げています。プロスポーツの活躍は、宇都宮市全体にとって非常によい効果を与えてくれています。

関口　映画もスポーツも、宇都宮市のイメージアップに大きく貢献してくれています。

佐藤　現在、日本は人口減少社会。宇都宮市でも少子化や高齢化への対応は、喫緊の課題となっています。人が減りにくい社会、高齢者を若い人が支えやすい社会を実現するためには、今からがんばっていかなけ

昭和19年生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。昭和45年㈱関口入社。平成5年、代表取締役社長に就任、平成24年6月から代表取締役会長。平成26年12月から宇都宮商工会議所副会頭を務め、平成29年6月に第19代会頭、（一社）栃木県商工会議所連合会会長に就任。全国菓子卸業組合理事長、栃木流通センター理事長などを歴任。

宇都宮商工会議所 会頭

関口 快流

れば、間に合わなくなります。次世代のためのまちづくりをめざす宇都宮市を、経済界もぜひ支えてください。

宇都宮市は、先ほどふれたとおり「住みよさランキング」で第1位。これは5年連続です。また「共働き子育てしやすい街」（日経DUAL・日本経済新聞）でも第1位（人口50万人以上の都市）に輝きました。こういう指標を出していただけることは、大変ありがたいですよ。これを使えば誰でも簡単に宇都宮市の魅力を伝えられますし、情報を受け取る側にとっても分りやすいでしょう。映画も、同様に分りやすいですね。ですから、アピール度合いも大きいと思います。

宇都宮市の魅力を十分に発信できれば、人や企業を呼び込むことにつながります。それが経済の活性化や人口減少対策にもなるのだと考えています。

初顔合わせながらもともと旧知の仲、話が弾みました

「東北道（仮称）大谷スマートICの開設に大きな期待」（佐藤市長）

関口　今年はデスティネーションキャンペーン（以下「DC」）本番です。商工会議所としてもさらに力を注いでいきたいと思います。

DCは、どうしても日光など著名な観光地が中心となってしまいます。宇都宮市も観光面での魅力アップが急務です。大谷地区も重要ですが、同時に中心部の魅力アップについても、どんどん手を打っていかなくてはと感じています。宇都宮餃子はありがたいことに全国区ですが、餃子だけではなく複合的な魅力づくりが大切ではないでしょうか。

佐藤　DCは、どの県も誘致をしたいと思っているでしょう。JR6社がこぞって宣伝してくれるわけですから、こんなに大きなチャンスは滅多にありません。これを成功させ、さらに来年以降につなげていくことが大切です。

関口　DCの後は東京オリンピックや国体開催が続きますからね。この流れに、宇都宮市も乗らないといけませんね。

佐藤　近い将来には、東北自動車道の大谷にスマートインターチェンジができます。これまでより多くの観光客が宇都宮市に寄っていただける効果があるでしょう。ここで降りると宇都宮市中心部まで一直線ですから、大谷地区ばかりでなく宇都宮市全体にとっても、大きなことだと思います。

関口　大谷はいま注目されていて、観光客入込数も増えつつありますね。

佐藤　平成27年は48万人、平成28年は62万人と、着実に増えており、宇都宮市全体では1483万人になりました（宇都宮市調べ）。

関口　一方で、交通渋滞なども起きそうですが？

佐藤　そうならないように道路整備を急いでいます。交通の流れを調整して、快適な移動ができるようにする予定です。

関口　LRTの早期実現を望む声が、これをきっかけに高まることも考えられます。

佐藤　予定では4年後開通となっています。「いちご一会とちぎ国体」の開催と同じ年です。また、JR宇都宮駅東口地区整備もそれに合わせて進めていく予定です。これもさまざまなご提案やご意見をいただいています。

関口　JR宇都宮駅東口地区整備については、これからも行政と商工会議所が密に連絡をとりつつ、もっとも良い形で実現できるようにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

こうした開発による活性化は、本当に重要だと思います。県内でも、小山市などはかなりうまく活性化をしているのではないでしょうか。

私は、今の時代は事業者の自助努力がまずあって、それを上手に支援することが会議所の役割だと思っています。私たちばかり活性化に力を注いでも限界があります。当事者自身が努力をすることが、何より重要ではないでしょうか。

栃木ブレックスがリーグ優勝、当所青年部が中心になってパレードが行われました（6月3日）

「宇都宮市の発展を支える商工会議所活動を推進したい」（関口会頭）

佐藤　今年は、宇都宮市のまちづくりの羅針盤となる、第6次総合計画において掲げた「交通の未来都市」などの6つの「未来都市」の実現に向けて、スタートする船出の年です。宇都宮市が、人口減少や超高齢社会の中にあっても維持発展できるよう、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

特に経済は重要です。企業に元気がないと、街全体が衰退します。ですから企業の元気を応援する施策・事業も重視しています。企業が成長すれば、人々の生活も潤い、消費が増え、それがまた企業活動を活発化させます。この好循環を作っていかなくてはならないとがんばっているところです。

また、生活環境や労働環境を改善することで、定住人口の増加につながれば、高齢者を支えやすい社会の実現にもなるでしょう。結婚、出産、子育てなど人生のさまざまな段階を切れ目なく支援することで、多くの人に選んでもらえる都市になることをめざします。

地方創生ムービー「キスできる餃子」が撮影されました（8～9月）

また、宇都宮市が推進しているネットワーク型コンパクトシティが、高齢者や社会的弱者の方々が安心して暮らすことのできる街の実現につながると考えています。自分で自動車を運転できない方も、安心して暮らし、行きたいところに行くことができる仕組みが、徐々にできつつあります。若い人に手伝ってもらわなくとも、自力で銀行や病院、スーパーに行ける社会にしていきたいと思っています。

関口　LRTの実現だけではなく、地域内交通の整備も重要ですね。

佐藤　はい。LRTと路線バスやデマンドタクシーなど、さまざまな公共交通を組み合わせていきます。同時に、ICカードを導入し、これ1枚でさまざまな公共交通が利用できるようにしたいと考えています。

現在、皆さまのおかげで税収は伸びています。これを効果的に使うことで市内でお金が好循環する社会が生まれるよう、予算を工夫していきます。

関口　いま「格差社会」という言葉を、あちこちで耳にしますね。企業にも勝ち組や負け組、企業間格差が取りざたされています。グローバリズムは、そういう「格差」を生み出し、拡大していくマイナス点があると思います。

企業活動は、ただやみくもに大きくすればいいというものではありません。負けないために企業規模をひたすら拡大するのではなく、他にない個性を持つことで、小さくとも強い企業を作ることができます。そういう考え方をしていくことで、地域貢献などの視点も育まれていくと感じています。

もちろん、地域を越えて成長するナショナルチェーンをめざすのも良いでしょう。一方で地域に密着し、ここで得た利益をここで配分するタイプの企業活動もすばらしい。これらは相反するのではなく、両立させられる社会であることが、重要でしょう。

また、企業同士がやみくもに敵対するのではなく、上手に棲み分けして、時には助け合い、支え合うことも忘れてはいけません。日本は江戸の昔から、この「棲み分け」を上手にやってきました。「総取り」ではなく「棲み分け」をめざし、実現することが必要ですし、それが宇都宮市のさらなる発展に大きく寄与すると思います。

佐藤　今年は、これまで培ってきた宇都宮市の力をさらに結集し、大きく飛躍する年にしたいと思います。

関口　同感です。今年はジャンプする年にしていきたいですね。

佐藤　そのうえで、今年は転換の要になる年でしょう。現在進んでいる高齢化や少子化、人口減少などは、社会構造を変えていかないと対応できません。少ない人数でも支えやすい社会を実現しなければ、次の世代は多分参ってしまいます。その対応が、今や待ったなしになっているという意味で、今年は重要な節目の年になるのではないでしょうか。

宇都宮市でも、さまざまな施策をしっかりと、かつ、丁寧に進め、次の世代にとってのすばらしい礎の年となるようにしていきたいと思います。市民の皆様のご協力も不可欠ですので、どうぞよろしくお願いします。

関口　宇都宮商工会議所は、中小企業や小規模企業の取りまとめ役として、さらに邁進していくつもりです。と同時に、宇都宮市との協力をよりいっそう進め、例えば行政の手が届きにくいところは商工会議所がフォローするなど、連携してよりよいまちづくり、地域社会づくりを成功させたいと思います。

経済は、地域社会あってのものです。宇都宮市が発展するから、地域企業も安心して活動できます。今後ともぜひ市の発展をめざし努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。

昨年も「ミヤ・ジャズイン2017」など多くのイベントが開催され、宇都宮を盛り上げました